

Injury Alert (傷害速報)類似事例

折れ戸式の扉による手指外傷 (No. 90 開閉式ドアによる手指外傷の類似事例 1)

事例	基本情報	年齢：2歳 5か月 性別：男児 体重：12.0kg 身長：85cm
	家族構成	両親、兄（7歳）、姉（5歳）、本児の5人家族。
	発達・既往歴	なし
臨床診断名		左小指挫滅創
医療費		入院 565,590円 外来 6,810円
原因対象	対象名称	クローゼットの折れ戸式の扉（図1）
	入手経路 使用状況	祖父母宅は2年前にリフォームされ、和室のクローゼットの扉を引き戸式から折れ戸式に改装した。これまでもクローゼットの扉を本児が自身で開閉して遊んでいることが度々あった。過去に2-3回、扉に指を挟んだこともあったが、外傷の程度が極めて軽微であったため医療機関は受診していなかった。
発生状況	発生場所	祖父母宅の和室。和室はリビングからワンフロアで続いている。
	周囲の人 周囲の環境	兄と姉も和室にいたがそれぞれ個々で遊んでいた。母・祖母はリビングにいた。父は自宅にいた。
	発生日月日	2022年2月X日（土）午後6時0分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	当日は祖父母宅で過ごしていた。本児が数分前からクローゼットの扉（図1）をボタンボタンと折り畳みして遊んでいるのを母は認識していた。午後6時過ぎに和室から啼泣が聞こえたが、母はまたクローゼットの扉に指を軽く挟んだのだと思っていた。同室にいた姉が出血していることに気がつき大声で知らせたため、急いで母が駆け寄ると、左小指末端部が挫滅し出血が続いている状態であった。救急要請して医療機関へ搬送された。午後7時56分に医療機関に到着した。

<p>医療機関受診時 以降の治療経過 転帰</p>	<p>受診時、バイタルサインに異常を認めなかった。左小指爪根よりやや近位から末端部部分が挫滅し、指の橈側の皮膚でかろうじて繋がっている不全断裂の状態であった。X線検査では明らかな骨傷は認めなかった。静脈鎮静下に、救急室で形成外科医により処置を実施した。局所麻酔を併用し、洗浄しながら末端部を用手的に整復してみると、指腹の一部の皮膚が欠損していた（図2、3）。人工真皮で欠損部を補完し、縫合処置を実施した（図4）。30分程度で処置は終了し、一般病棟へ入院となった。処置時から抗菌薬を投与し、退院まで継続投与した。入院8日目に退院した。退院後は形成外科外来を通院しており、創部の経過は良好である（図5）。</p>
<p>キーワード</p>	<p>クローゼット、折れ戸式の扉、手指外傷</p>



【図1】現場の写真。祖父母宅のクローゼットの折れ戸式扉（矢印部分で受傷した）



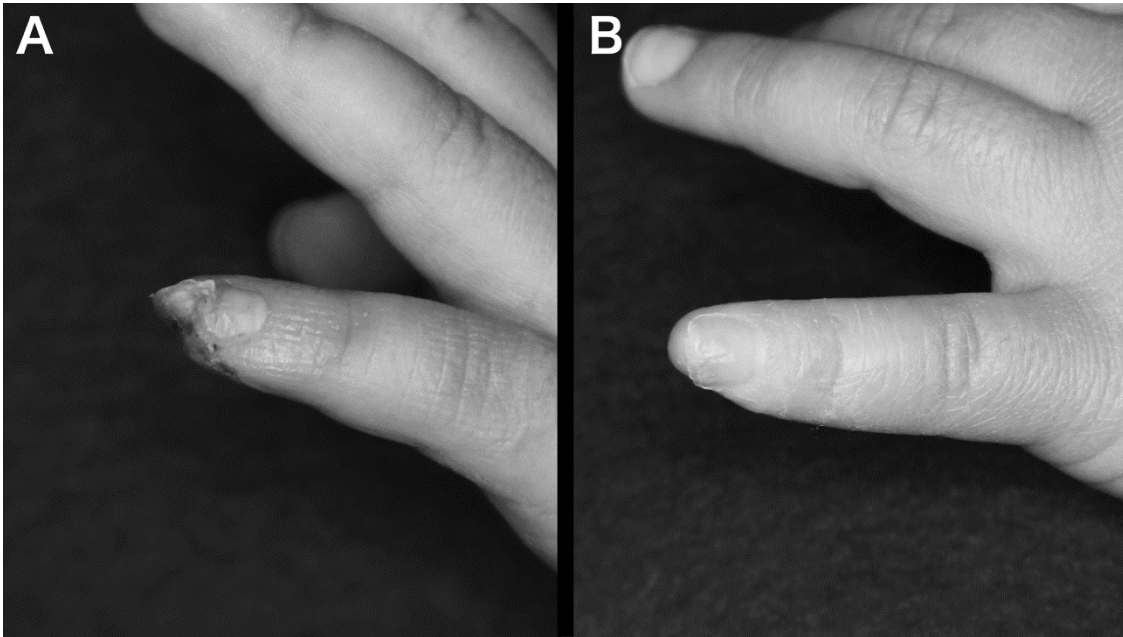
【図 2】 左小指末端部が不全断裂している



【図 3】 左小指指腹の皮膚は一部に欠損がみられた



【図 4】 縫合直後の創部。人工真皮を用いて縫合した。



【図5】 A. 受傷1か月後の創部 B. 受傷2か月後の創部